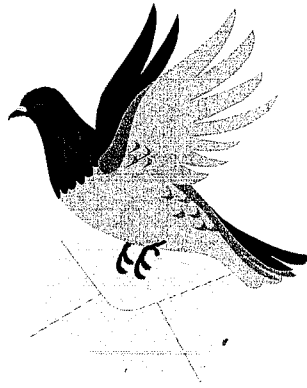


平成 30 年度 評価結果報告書



小平市立障害者福祉センター

(児童発達支援事業)

株式会社日本生活介護

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者の孤立防止のために、保護者同士の交流場の設置や地域資源の情報提供を積極的に行っている
	内容	障がいを抱えた子どもの保護者として、一生懸命子育てをしているものの、子どもの発達過程やこれからの将来について不安や悩みを抱えている人は少なくない。保護者の孤立防止のためにも、不安や悩みを共有し、ともに考えていく手段や機会として、連絡ノートや面談だけでなく、職員にいつでも相談できる体制や、保護者同士の交流場であるクラス懇談会等場の提供を行っている。その他にも、保護者主催の「就学を支援する会」やOB・OG会、当事者団体などの地域資源の情報提供を積極的に行っており、園としての重要な役割と認識して支援している。
2	タイトル	昨年度から年2回摂食の専門医に診てもらい、言語聴覚士等専門職と連携しながら支援を行っている
	内容	保護者として食に関する悩みや困りごとが多く、偏食傾向や食思がない子ども、口いっぱい含んで食べてしまう子どもなどがある。また、舌の動きや咀嚼、飲み込みが上手に出来ない等機能面に課題のある子どもも中にはいる。日々子どもたちの様子を見ている看護師や保育士の方で、保護者の心配事や、園での食事場面で気になることがあれば、年2回各クラスに来る摂食の専門医に診てもらっている。咀嚼機能の向上が言語発達に影響してくることから、言語聴覚士、作業療法士等とも連携して支援を行っており、専門職によるチームケアが可能となっている。
3	タイトル	集団活動の中で、その子の特性や特技を引き出し、行事での披露につなげる職員の観察力の鋭さと業務水準の高さが感じられる
	内容	日ごろ子どもたちの様子を見ている保育士や看護師、定期的に関わる理学療法士や作業療法士等の専門職と連携し、集団活動の中で、その子の特技や特性を引き出すよう創意工夫を行っている。また、子どもによっては、飽きがきたり集中力がなくなるようであれば、別の動きや順番を変えるなど試行錯誤しながら行っている。子どもたち一人ひとりの好きな体の動きや特性を見極め、一連の動作を体得し、運動会などの行事で披露する過程に、職員の観察力の鋭さと業務水準の高さが感じられる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	市立施設としての役割や社会福祉協議会職員としての責務、将来の方向性など、幅広いテーマで経営層の考えを伝えることが期待される
	内容	事業所の基本方針などは、事業計画に掲載されている。施設長は年度当初の職員全体会議で事業計画の説明と合わせて基本方針などを職員に伝えている。また、目標管理制度を運用する中でも基本方針等を職員に周知をしている。しかし、今回の職員調査結果では、経営層の意見が職員に伝わりにくいとされる記述が散見された。職員とのコミュニケーションの機会をさらに増やす中で、施設方針に加えて市立施設としての役割、社会福祉協議会職員としての責務、将来の方向性等、幅広いテーマで経営層の考えを伝えていく取り組みの進展に期待したい。
2	タイトル	利用者サービスの維持向上と職員の負担が少ない働き方を可能にするための業務改善の進展が期待される
	内容	子どもを預かる時間を長くしていただきたい等の要望が保護者から出されている。現在の業務を変えずにサービスの向上を行うと時間外勤務が増えることが予測される。職員を増やすことも予算制約上厳しく、働き方改革で職員の負担増も難しくなっている。職員の負担を増やさずに利用者サービスの向上と両立させるために、利用者の状況や勤務を良く知る職員が創意工夫して業務改善に取り組み、不要な業務を整理したり、直接処遇以外の間接業務を合理化するなどの工夫について検討していくことが期待される。
3	タイトル	送迎バス車両の改善について市との協議を進めるなど、送迎におけるさらなる安全向上のための取り組みを検討されたい
	内容	定期的を送迎業務の委託事業者との会議を設けたり、添乗する職員向けのマニュアルを作成するなどして安全な送迎に努めている。しかし、送迎に使用しているバス車両が大人用となっているため、「シートの位置が高く子どもの様子が把握しづらい」ことや、「シートベルトから抜ける可能性がある」等の課題がある。送迎については市の移動支援事業の枠組みで実施していることもあり、施設単独での改善は難しいと思われるが、市との協議を進めるなど施設としてできることから改善に向けた取り組みを図ることに期待したい。